

平成26年度 妙高市道徳部 活動報告

部長 池田 良夫

1 研究主題

道徳の教科化に向けた道徳の授業改善はどうあるべきか
～「私たちの道徳」の有効な活用方法を探る～

2 研究の概要

中教審は、平成26年10月21日に「道徳教育の教育課程の改善について」を文部科学省に答申した。答申では、「道徳の時間」を「特別な教科」(数値評価を行わない)にし、検定教科書を導入することとした。こうした文部行政の動向を踏まえ、標記研究主題に基づき、下記のような3つの研修を行った。

(1) 授業改善の視点の検討

「充実した道徳授業のための工夫」～県中教研「学び合い10」を受けて～(8月21日)
【道徳の授業改善の視点】

- ①全体計画や年間計画の作成 ②生徒理解・実態把握 ③魅力ある資料・題材の設定
- ④発問や展開の工夫 ⑤個の学習の確保 ⑥話し合いの目的、ルールの提示
- ⑦意見交換の場の設定 ⑧体験活動との関連 ⑨地域・家庭との連携
- ⑩評価・振り返りをする場面の設定

(2) 「私たちの道徳」を活用した授業研究

- 新井小学校3年道徳公開授業 市教研道徳部員による参観と協議会(11月11日)
 - ・主題名「自分のよいところを見つけ、伸ばす」1-(5)
 - ・資料名「うれしく思えた日から」出典「私たちの道徳」(小学校3・4年)

(3) 研究主題に関連した理論研修

- 講話による研修(11月11日)
 - ・演題:「道徳の教科化に向けた道徳の授業改善はどうあるべきか」
 - ・講師:上越教育大学大学院学校教育研究科 教授 早川 裕隆

3 研究の実際

【授業研究で検証したポイント】

① 「私たちの道徳」のワークシートや読み物資料活用の工夫

「私たちの道徳」は、発達段階に合った読み物資料が集録されている。ワークシート等も盛り込まれている。本授業実践では事前にワークシートに「自分のよい所、気になるところ」を書かせ、導入時にその内容を紹介した。この手だてにより、道徳的価値について自分事として考えさせることができた。このようにシートの活用場面をねらいに則して工夫することによって指導効果が高まることが検証できた。

② 異なる見方を交流させることを通して道徳的価値の理解を深める工夫

本実践のねらいは、「自分のよさに気づき、よいところを伸ばそうとする態度を育てること」だった。子どもたちの多くは、自分の欠点には目が向くが、よいところにはなかなか気付いていない様子が見られた。授業の終末で、友だちから見た自分のよいところを書いたものを読む場面をつくった。他者の見方を知ることにより、自分のよさに気づききっかけをつくることができた。このように、異なる見方を交流させることにより道徳的価値の理解が深まることが分かった。

4 成果と課題

- ・「道徳の教科化」に向け、今後検定教科書を活用した授業を行っていくことになる。その際、他者の見方との交流を図るような指導過程が大切になってくることが確認できた。今後の課題は「評価の在り方をどうあるべきか」を探っていくことである。